

平成27年度会務総括報告

平成27年度は新執行体制ならびに新組織体制となり、小倉明夫代表理事のもと、役員一丸となって公益社団法人として会務執行に努めた。平成27年度事業ならびに会務運営は、平成26年度第5回理事会において承認(平成27年度定時総会にて報告)された事業計画に基づき執行した。また、公益社団法人に移行して初めての内閣府立ち入り検査を受検し、文書による指摘事項はなく口頭による軽微な改善事項のみで無事に終えることができた。

福島原発事故による放射能汚染被害に関連して、市民に正しく放射線・放射能を理解してもらうために引き続き市民公開講座を金沢市ならびに宇都宮市で、また、診療放射線技師ならびに医療関係者を対象に福島市にてリスクコミュニケーションセミナーを開催した。

国際化に関しては、タイ医学物理学会(TMPS)と学術交流協定を締結し、役員ならびに発表者の相互受け入れを開始する。ECRに役員を派遣して具体的な連携事業の打ち合わせならびに本学会の広報を行った。一方、国際化の一つの指標である総会学術大会の英語口述発表の割合は約25%であった。

平成27年度末の正会員数は16,914名であり、平成26年度末の正会員数と比べてわずかであるが増加し、引き続き上昇傾向を維持した。学生会員は235名となり平成26年度末と比べて減少した。また、総会学術大会では5,000人を、秋季学術大会では1,600人を超える多くの会員が参加し、大盛会であった。

会員諸氏の温かいご理解と担当役員・委員の献身的な努力により、学会事業が順調に執行できたことに深甚の謝意を表す。

以下に、平成27年度事業の全般にわたり、その概要を報告する。

1. 学術集会事業；公1

1) 学術大会の開催

(1) 総会学術大会の開催

第71回総会学術大会は平成27年4月16日(木)～19日(日)の4日間、平野浩志大会長のもと開催した。一般研究発表演題は596題、参加登録者数は5,005名であった。

第72回総会学術大会は平成28年4月14日(木)～17日(日)の4日間、小倉明夫大会長のもとパシフィコ横浜会議センター他で開催すべく準備を進めた。

(2) 秋季学術大会の開催

第43回秋季学術大会を平成27年10月8日(木)～10日(土)の3日間、市川勝弘大会長のもと金沢文化ホールにてJRC共催、日本医療情報学会の後援で開催した。研究発表は384題、ポスター発表76題、学術班研究報告7題、参加登録者は1,653名であった。

第44回秋季学術大会を平成28年10月13日(木)～15日(土)の3日間、梁川範幸大会長のもと大宮ソニックシティで開催すべく準備を進めた。

(3) 専門部会プログラム、セミナーの開催

7つの分科会が春秋の学術大会にジョイントして部会プログラムを開催し、教育講演や種々の企画を行った。また、教育委員会、専門部会、地方支部共催で、画像部会はCADセミナーと、ROCセミナー、DRセミナー、2回の臨床画像評価セミナーを、核医学部会は核医学技術研修会と2回の核医学画像セミナーを、放射線治療部会は2回の放射線治療部会セミナーを、撮影部会は2回の乳房撮影ガイドライン・精度管理研修会、MRセミナー(上級編)、CTセミナー、救急撮影セミナー(実務編)、デジタルマンモグラフィを基礎から学ぶセミナーを、計測部会は簡易線量計作製セミナーを、放射線防護部会は2回の放射線防護セミナー、医療情報部会は2回のPACS Specialistセミナー、2回のPACSベーシックセミナーを行った。

(4) 地方支部における学術大会、セミナー等の開催

各地方支部において地域に根ざした支部独自の企画で、春もしくは秋に学術大会ならびにフォーラム、セミナーなどを開催した。学術大会については、北海道支部は4月に北海道支部第71回春季大会、11月に北海道支部第71回秋季大会を、東北支部は10月に東北支部第53回学術大会を、関東支部は12月

に第 62 回関東支部研究発表大会を、東京支部は 5 月に第 69 回東京支部春期学術大会、11 月に第 34 回東京支部秋期学術大会を、中部支部は 11 月に第 50 回中部支部学術大会を、近畿支部は平成 28 年 1 月に第 59 回近畿支部学術大会を、中国・四国支部は 11 月に第 56 回支部学術大会を、九州支部は 10 月に第 64 回九州支部学術大会を開催した。

(5) 公開シンポジウム・公開講座の開催

一般市民を対象とした市民公開講座を「放射線と食の安全 ～日本の食文化を守るために～」のテーマで金沢市において第 43 回秋季学術大会に併催した。また、平成 27 年度市民公開シンポジウムを「最新の動脈弁狭窄症の治療・・・TAVI」のテーマで京都市において開催した。昨年に引き続き、東日本大震災によって発生した福島原発事故による放射能汚染被害に関連して、放射能汚染に関する正しい知識の広報を目的に一般市民を対象とした市民公開講座を宇都宮市で、また一般市民と向き合う診療放射線技師を対象としたリスクコミュニケーションセミナーを福島市で開催した。

2. 刊行広報事業；公2

(1) 学会誌の発刊

平成 27 年 1 月～12 月で掲載論文数が 59 編（昨年と同期間で 85 編）となった。学会誌第 71 巻 1 号～第 71 巻 12 号の 12 冊（論文特集号 1 冊含む）を毎月 20 日に発行した。

(2) 英語論文誌

一般社団法人 日本医学物理学会との共同発刊で、第 8 巻 2 号を平成 27 年 7 月 20 日付で、第 9 巻 1 号を平成 28 年 1 月 20 日付で発行した。掲載論文数の合計は 37 編となった。

(3) 出版活動

放射線技術学叢書(27)「X 線 CT 撮影における標準化「ガイドライン GALACTIC」(改訂 2 版)」, 放射線技術学叢書(35)「動画で観る医療安全ー放射線部門の KYT(危険予知トレーニング)ー」の発刊を行った。また、放射線技術学叢書 (14-4)「乳房撮影精度管理マニュアル」を増刷した。

(4) 支部雑誌の発行

各部会において部会雑誌を発行した。北海道支部は北海道放射線技術雑誌を Vol. 78, Vol. 79 を、東北支部は東北支部雑誌第 25 号を、関東支部は関東支部雑誌 18 号を、東京支部は東京支部雑誌 Vol. 127, Vol. 128 を、中部支部は中部支部雑誌 Vol. 17 を、近畿支部は近畿支部雑誌 Vol. 21 No. 1, No. 2, No. 3 を、中国・四国支部は中四国放射線医療技術フォーラムプログラム集を、九州支部は九州支部雑誌 Vol. 14 No. 1 を発行した。

(5) 部会雑誌の発行

春秋の学術大会に合わせて各部会において部会雑誌を発行した。

(6) 広報活動

会告、お知らせ、イベント、他団体からの案内をホームページ（和文）等に掲載し、広報活動を展開した。また、本会の海外における認知度を高めるために国内外で開催された国際会議(ECR, RSNA など)で国内外に向けて広報活動を行った。一方、医療に関する放射線被ばくや放射線技術に関する市民からの問い合わせに対して迅速に対応した。

3. 研究調査事業；公3

学術調査研究班 12 班を編成して積極的な学術活動を行った。また、4 規格について JIS 原案を作成した。放射線事前安全評価のための計算指針の改正に伴い、放射線事前安全評価について X 線 CT を中心に計算指針の検討を行い、適正な医療放射線管理体系の構築に資した。

第 71 回総会学術大会では 8 講座の「専門講座」、11 講座の「入門講座」を、第 43 回秋季学術大会では 8 講座の「専門講座」、8 講座の「入門講座」を開催するとともに各講座のコンテンツを e-learning としてホームページに掲載した。また、2013 年度の医療安全セミナー、英語力向上セミナー、2014 年度の教育講演、2015 年度の海外招聘講演、国際招聘シンポジウムなどをホームページに掲載した。

4. 研究奨励事業；公4

規定に基づき、三賞、学術業績賞、研究奨励賞等の選考・推薦を行った。第71回総会学術大会において海外からの優秀な若手発表者に対して奨学金を支給した。

北海道支部は、学術賞、学術奨励賞、優秀研究賞などを表彰した。関東支部は、功労賞、新人賞を表彰した。東京支部は功労賞、学術奨励賞、新人研究奨励賞を表彰した。中部支部は功労賞、技術奨励賞を表彰した。近畿部会は第59回近畿部会学術大会の優秀発表者に対して大会長賞、新人賞を表彰した。中国・四国支部は、支部規定に基づき表彰した。九州支部は第71回総会学術大会での研究発表に対して助成を行った。

5. 連携交流事業；公5

(1) 国内

① 関連学協会への委員の派遣ならびに関連学協会への協力を行った。

- ・ JIRA と協力し、に基準委員会活動としての JIS 原案審議と認証基準審議を行った。
- ・ 日本 I H E 協会等の関連学協会と連携を図り、医療情報に関する標準化にかかわる規格・コード・ガイドライン等について協議、策定を行った。

② J R C 理事会に役員を6名派遣し、学術大会開催企画に積極的に参画した。

③ 医療被ばく研究情報ネットワークに参画し診断参考レベル等について検討した。

④ 公益社団法人 日本診療放射線技師会と懇談会を2回開催し、公開合同学術セミナーを1回開催した。

(2) 海外

短期留学生の派遣（1名）、国際研究集会への派遣（7名）、本学会と交流のある海外学会への派遣（5名）、を行った。

第71回総会学術大会に中華医学会影像技術学会から役員2名、推薦会員3名を招聘した。また、第23次中華医学会影像技術学会総会学術大会に役員2名、会員4名を、ならびに平成27年度大韓放射線科学会春季学術大会に2名の役員、会員1名派遣して学術交流をおこなった。さらに、タイ医学物理学会(TMPS)と学術交流協定を締結した。